

【雑草などという草はない】

「雑草などという草はない」といった人がいました。

梅雨明けの猛暑を避けて、早朝、借りている畑に向かいました。五日ぶりの畑は、なす、かぼちゃ、とうもろこしなど栽培をしている野菜に負けじと「雑草」が生い茂っていました。草の方が勢いがよく、見るからに手入れの手抜きとわかります。三時間を掛けて悪戦苦闘の末「雑草」の処理。

ふと、引き抜いた草を見てみると猛暑の中「彼らも一生懸命」根をはって生きてきたんだと思いました。

人間の好み、都合で、「野菜」と「雑草」という名前に別けられてしまったのでしよう。

「雑草」は、嫌われ者のイメージです。同じ仲間でも、「野の花」というと、いかにも清楚で、風になびいているやさしい花をイメージする草もあります。

そんな「草」の持つそれぞれの「たくましさ、やさしさ……」も見つめられる人間にならないければ、と思った早朝のひとときでした。

